

## 大正十三年を送る

大正十三年正月、それは新年といふよりむしろ「冬」といふ状態に於て迎へられた。あの曠漠とした枯葉色の野原、梢ばかりの木立と常磐木の暗い緑に彩られた、音なく光ない、寂寥さながらの自然の冬、天災に遇た關東の地は勿論直接被害の無かつた他の方面でも諸種の關係から、人の心に或は事業に、或は其兩者共に誠に「冬」の有様であり、「冬」の氣持であつた。

然し小虫は冬眠から覺める、日本全國「冬」につままれたのは暫くの間であつた。用意深い自然が、靜かな冬の憩ひの間に育む、新生の力、それは大正十三年の春が來らんとするに當つて、年々の春に一倍した力を以て緊張さを以て全國各地各方面の人の心に充ち溢れたのである。

「震災後」「震災後」といふ言葉は、よいにつけ悪いにつけ人々の間に言ひ代はされた。震災後の我が幼稚園界、被害の少ない各地の盛況と聲援を力に、關東被害地の、實に

K

H

みじめな我が幼稚園界は、兎にも解にも苦しい冬を耐へ通して、待ちに待つた復興の春へと起ち上つたのである。花をみる春ではなく蝶と遊ぶ四月ではなく、傷癒えて健康に復したものの更に一倍の力を込めて新生の春に一步を踏み出したのであつた。事業復興に寢食を忘れて活動する父母達のたゞ一つの憂は、愛兒の保護教育である。人々をして復興事業に専心ならしめんが爲に、復興の歩を速かならしめんが爲に新たに設けられた、公私合せて二十近くの托兒所また社會事業協會では臨時保母養成所を設けて保母の教養に市では營養食供給により療養所設置に依て衛生的養護に又産育院の新設に依て乳兒と母親を中心に社會的の保護に直接間接各方面の援助に依て燻失幼稚園もバラツクながら我が家に歸た、そして黒焦げの木から若やかな新緑がもえ焼木の梢に可憐な櫻の花がほゝゑむような奇跡におどろきながらも日々をいそしむ様になつた。

夏には大阪、奈良、福岡、東京の各地に於て諸種の講習が催され十月には、第四回全國保育者大會が岡山に開かれ、各方面の討議研究發表に充ちて大に盛會を極めた。なほこれに前後して、大阪、神戸、京都、名古屋、東京の各代表者は協力して保姆資格、幼稚園令の二問題に就いて活動せられつゝある事之亦本年の幼稚園界に特筆すべき事であらう。

……、淋しく迎へられた大正十三年。然し今、元氣を得て幾分でも肥へ、はれやかに明るくなつた其姿を送る事は私にとつて喜ばしい。殊にその後半期に入て起た運動、それは可成り古い長い間の問題であつたは其事成就の後我保育界に一進歩を來たすべきであつて、我等の一人く擧て聲援すべきである。

大正十三年！復興！！

復興への歩みは容易ではなかつた、然しあなたの復興への歩みは勇しかつた、努力に努力を重ねてだんだんに力強く生長して行つたのもしい姿。然し私達は、もうあなたを送らなければならぬ。喜びと感謝の涙ぐましい氣持で、靜

かな永遠のいこひへ。  
さらば、大正十三年！。

病氣は轉換への準備である。だから病氣を怨む事は寒氣や雨を怨むのと同じ事だ。

病氣は利用すべきもので、決して怨むべきものではない。雨を悲しむ者は、ただ遊び暮してゐる者だけで、眞面目に生活してゐる者には、雨も喜ばれる。

病氣もさうだ。病氣のみではない、不快な氣分や、幻滅や、悲哀など——かういふものは皆現世からの離脱を援けて、新しい生活の轉換を容易にするものである。

——トルストイ日記より——